

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第4回安曇野セミナー

## 集団保育での感染症対策

グループ E ミニレクチャー

坂田 宏<sup>1)</sup> 多屋 馨子<sup>2)</sup>

## はじめに

集団保育は、種々の感染症の伝播の舞台となっていることは事実である。毎年、インフルエンザ、水痘、流行性耳下腺炎、ロタウイルス胃腸炎、RSウイルス呼吸器感染症など、例をあげればきりがなく、集団発生が認められる。小児科医にとって、集団保育における感染の連鎖をたちきれば、社会への貢献はきわめて大きいものになる。この命題をとくためにいくつかの重要な点を解説してみたい。

## I. 集団保育の現状

図に示すように保育所利用児童数は、小児の数は減少しているにもかかわらず、右肩上がりである。これは、女性の社会進出が勧められていること、核家族化が進み子どもの面倒をみることのできる祖父母が近くにいない家庭が増えていることなど、近年の社会構造と密接に関連しており、この傾向はさらに強まると考えられる。

## II. 集団保育で感染が起こりやすい理由

保育所では、低年齢の子どもたちが濃厚に接触しながら長時間一緒に生活している。低年齢であることから免疫機能が未熟であり、感染対策で重要な手洗いやマスクの着用が不十分になりやすく、感染者との接触を控えることが困難である。これらは、同じく子どもたちが集団となる学校と

は大きく異なる点である。学童における感染対策とは別個な対策が求められている。

## III. 保育所における感染症の発生

毎年4月に多くの感受性者（免疫をもたない者）が加わるため、頻繁に感染症の流行が発生する。予防接種で防げる感染症も少なくないが、定期予防接種の年齢に満たない1歳未満から保育を必要とする児も増加している。さらに、保育所の子どもたちの予防接種率は、幼稚園に通園する子どもたちや自宅で保育されている子どもたちより低いという調査結果があることから、いったん感染症が発生すると次々と感染の連鎖が進むことになる。その連鎖のなかには、若い保育士も含まれることがある。

## IV. 保育所における感染予防対策

園内で感染症の発生を皆無にすることは不可能であるが、考えられる一般的な対策をいくつかあげる。

1. 配膳前、食事前、お出かけ後、排便後、おむつの取り扱い後の手洗いの徹底
2. タオルなどの共用を避ける。
3. 規則正しい生活習慣
4. 濃厚に接触する先生方自らの健康管理
5. 予防接種が可能な疾患においては、園児のみならず先生方も接種を受けておく。
6. 感染症の発生があったときは、速やかに全

1) 旭川厚生病院小児科

2) 国立感染症研究所感染症疫学センター

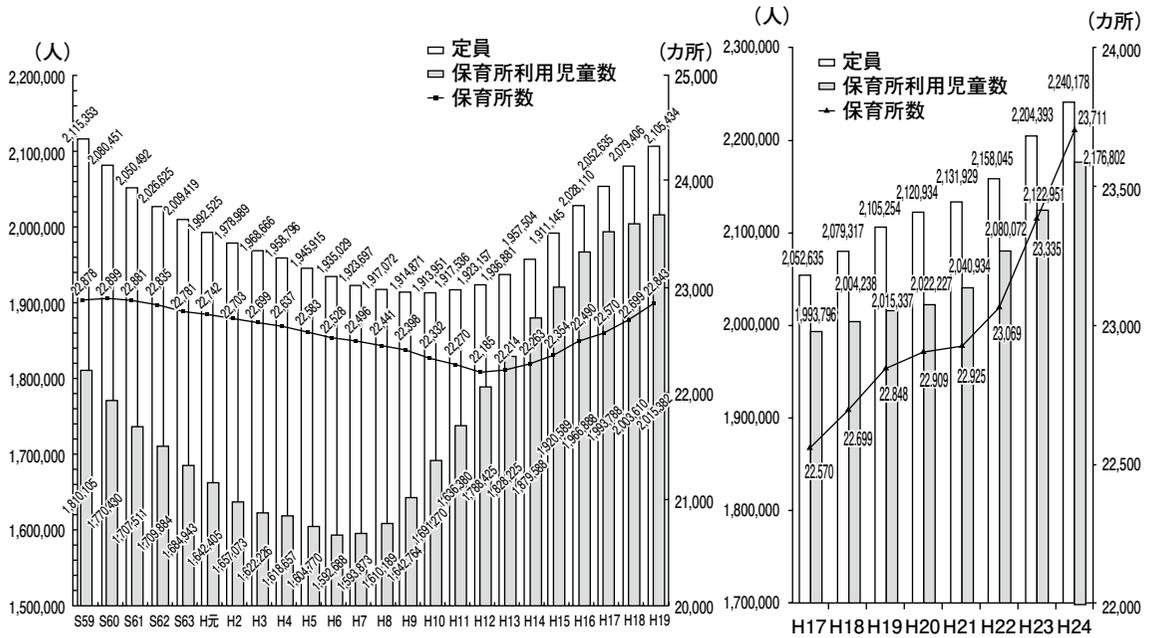


図 保育所利用児童数などの状況  
 保育所定員数，利用児童数および保育所数の推移（厚生労働省 HP より）

園児の保護者と先生方が情報を共有し，予防方法や注意すべき症状について，理解を深める。

7. 医療関係者，近隣の保育所，幼稚園，小学校と情報共有することは，早期診断，早期治療に貢献する。

V. このセミナーにおける方向性

グループ E の参加者にはセミナー前の打ち合

わせで，すべての疾患に対策を考えるのは時間が足りないことから，全体的な方向性を検討するとともに疾患は B 型肝炎と手足口病をとりあげるようになった。

これからの集団保育に影響を与えるような議論を進めていただきたいと願っている。

\* \* \*